

研究課題	絵本の読み聞かせと音楽を融合した鑑賞活動と音楽づくりワークショップの実践開発		
氏名	岡田 理佐子	所属	アート・アスレチック教育センター 助教
APRIN e-ラーニングプログラムの受講 <input checked="" type="checkbox"/> ←受講済の場合はチェックをすること			
<p>【研究成果の概要】（文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）</p> <p>絵本を子どもに見せながら読んで聞かせる「読み聞かせ」において、子どもたちは自分の経験と結びつけながら想像を広げ、思いを巡らせ、楽しみながら新たな世界に興味・関心を高めることができる一方、聞いている子どもたちは受動的になりがちで、豊かなイメージと言葉の感覚を養うための援助・工夫が必要であることが指摘されている。幼稚園教育要領解説において「幼児期においては、絵本や物語の世界に浸る体験が大切」と記載されているが、多くの保育の場において、保育者が絵本を読み、それを静かに聞いているということが多いという。</p> <p>また一方、近年では絵本の読み聞かせと音楽鑑賞を融合させることによって、双方に対する興味を促したり、鑑賞能力や集中力を高めたりする多様な実践が開発されている。そこでは、音楽はそれ自体が場の雰囲気をつくるため、物語の非言語的な面を表現することで、物語を立体的に見せる力があると、音楽と絵本の相乗効果が認められている。しかしこれに関しても、子どもたちが「聞き手」に止まってしまふことが考えられ、より表現力やコミュニケーション能力を育成するためには、子どもが主体的に活動できる手立てを講じる必要がある。</p> <p>これらより、絵本の読み聞かせに能動的な参加・関与を促すことで、絵本世界を共有する楽しさを味わうとともに、想像力や表現力をより膨らませるような、子ども主体の絵本体験を開発することを目指した。そこで、全国各地で絵本の音楽会を主催している「株式会社オトギボックス」にご協力いただき、絵本の読み聞かせに音楽遊びを入れ込んだワークショップ形式のプログラムを考案し、「ようこそ絵本の音楽会へ ジャム!!」と題して、本学芸術館で絵本の読み聞かせコンサートを実施した。また、コンサートの対象は本学周辺の地域に在住する親子として、地域と大学をつなぐことも本プロジェクトの目的の一つとした。</p> <p>コンサートの演目の一つである絵本『おんがくかいのよる』では、5匹のねずみが音楽会を計画し、街中から楽器になりそうなものを集めて楽器をつくり、練習する描写がある。そこで、参加者には事前に持ってきてもらうよう伝えていた、ペットボトル、ビニール袋、紙袋の3つを用いて、それぞれの音を生かした音楽遊びを行なった。音楽に合わせてペットボトルを叩いたり、ビニール袋を擦ったりするなどして、子どもたちもその場で合奏をすることができた。さらに、物語の中の歌を参加者も一緒に歌うなど、物語に合わせた活動を行うことによって、参加者全員で絵本世界を共有し、体験できるような活動を行なった。</p> <p>アンケートからは「観客参加型で一体感があり楽しめた」「身近な素材で子どもが自分で鳴らして参加できるのがとても良いアイデアだった」「物語からの流れがあり、自然と引き込まれていた」など、音楽遊びを取り入れたことで、絵本世界をより体験的に楽しめたとともに、他者と合わせる一体感を味わうことで、達成感や満足感を得ることができたと考えられる。また、コンサートには200名を超える参加者（そのうち6割が大学近辺から）が来場してくださったことから、本プロジェクトによって、地域と大学を繋ぐことができたと言えるだろう。</p>			
<p>【研究成果発表方法】</p> <p>本学芸術館（学芸の森ホール）にて実施済み。 『令和6年度アート・アスレチック教育センター 報告書』に実践報告記載。</p>			

※発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。